特集 基礎学力の育成

4技能のバランス

森 千鶴（福岡教育大学）

はじめに

「コミュニケーション能力の育成」と聞くと，誰しもまず,「聞くこと,話すこと」を思い浮かべます。しかし,今や世界はインターネットでつながり,ネットサーフィンでは英語を「読むこと」が中心となります。また e-mail でのやりとりは,「書くこと」でなされます。その意味では,「読むこと，書くこと」の必要性は一昔前よりも高まっているともいえます。

また，中学校の教育現場で課題とされている「基礎･基本の定着」においても,「読むこと･書くこと」は不可欠です。つまり昨今の社会状況や，教育を取り巻く課題を考慮に入れると，学校教育の中の英語教育においては，4技能をバランスよく取り入れて指導することが重要であるといえます。

1.「基礎・基本の定着」と4技能

伊東（1999）は，学習を「わかるための学習」と「慣れるための学習」に分類しています。「わかるための学習」とは基本文型と語彙の理解と定着をさしており,「慣れるための学習」とは自己表現につながる表現方法に慣れることを示しています。そして，学校教育においては，まず「わかるための学習」が必要であるとして，この段階における4技能の統合を提唱しています。つまり,新教材を「聞く・話す」で導入し,「読む・書く」で定着させる，ということです。

2006（平成18）年度版 *NEW CROWN*（*18NC*）は，一貫して「わかるための学習」に留意しています。学習指導要領の示唆に従って，1年から3年まで，新教材の導入は会話形式が多く，次に続く練習も「聞く・話す」が主体です。しかし，それと同時に1年生のきわめて早い時期に，文字導入（「単語･文の書き方」）が紹介されており,定着のための「書くこと」へ結びつけることができます。また，それぞれの LESSON の最後にある THINK ABOUT IT では，本文内容に関係のある簡単なライティングも取り上げられており（たとえば，1年 LESSON 6 では「ミオについてあなたが印象に残ったことはどんなことですか。このレッスンの英文から抜き出してみよう。」），基礎の定着を確実にすることが意図されています。それにより，自己表現活動としてのライティングへの橋渡しにもなっています。

2. 読むこと

ところで,「自己表現力」を身につけさせる指導において非常に大切な前提は，表現したい「内容」があるということです。そこで,まず教科書の中に,感動を呼んだり，考えさせたりする，深い内容のある題材や読み物が提供されているかどうかが重要になります。そして学習者の側には，その題材や読み物の内容を正しく理解することが求められます。

NEW CROWN は従来から聞く，話すだけではなく，題材そのものや，読むこと，書くことを重視してきましたが，*18NC* においてもその方針には変わりはなく，意味深い内容をもつ読み物（LET'S READ）を提供しています。また，従来の LET'S READ の Reading Point 1，Reading Point 2 はそれぞれ，Pre-Reading，Post-Reading として整理されています。特に Pre-Reading は，これから読む内容の予測を促すことで,「読みのプロセス」のトップダウン・プロセスを活性化させ，さらに読み方の理想とされるインターラクティブ・プロセスへとつ

LET'S READ 2

Zorba's Three Promises

PRE-READING

A gull landed next to Zorba.
"Help me," the gull cried. "I'm covered with oil. I'm dying."
"What can I do?"
"Soon I'll lay an egg. Promise me three things. Please don't eat it."
"OK," Zorba said. "I won't."
"Please take care of the egg."
"OK. I will."
"And please teach flying to my baby."
"Me?"
"Yes, you."
"OK. I'll try."
"Thank you," the gull said.
She soon died. Under her body was an egg.

READING WRITE

DO IT!

WRITE 2

カードを書こう

Dear Mike,
Thank you for your card.
I had a good winter vacation. ● I went to Hokkaido with my family. ● I skied every day. ● I enjoyed it very much.
What did you do in your winter vacation?
Sincerely,
Aki

ながるよう工夫されています。

たとえば，2年生のLET'S READ 2 “Zorba's Three Promises” を例にとってみましょう。Pre-Readingの2つの質問や挿絵によって，生徒はまず「この話は猫とカモメの話らしい」と予測をたてます。次に①，②の答えを見つけようとして，目的をもって読みます（トップダウン・プロセス）。実際に読むときには，単語や文法にも注意を払うことになりますが（ボトムアップ・プロセス），そのことに気をとられすぎることなく，目的に向けて楽しみながら読み進めます。これこそ，読み方の理想とされる「インターラクティブ・プロセス」の実現です。

3. 書くこと

「書くこと」をひとつの技能ととらえた場合，「まとまりのある内容」を書けるようになることが求められます。つまり，パラグラフ単位でのライティングです。しかし，このことは，パラグラフ構成力も必要とされるので，中学生には高度な作業であるといえます。*18NC* のDO IT—WRITEでは，そのパラグラフ構成を無理なく理解させるために，それぞれモデル・パラグラフが示され，STEP 1，STEP 2と段階を踏んで，書くことに取り組めるよう工夫されています。

たとえば，1年生のDO IT—WRITE 2（「カードを書こう」）を見てみましょう。モデル文の提示によって，生徒は下線部分の文法構造（過去形）を見直して自分なりに理解し，書くことに取り組むことになります。基礎的な文法項目を，WORD BANKを利用しながら，一文，一文，書くことで復習することができ，また自分の冬休みの体験について書くので，自己表現の楽しさも味わえます。さらにパラグラフ・ライティングの基礎も学べます。

まとめ

以上見てきたように，*18NC* は，教科書にそのまま沿って授業しても，4技能が無理なく取り込まれるように工夫されています。特に，「基礎・基本」の定着に留意して，「読む・書く」活動も従来どおり重視しているところが大変に特徴的であり，注目すべき点であるといえます。

〔参考文献〕
伊東治己（1999）『コミュニケーションのための4技能の指導』教育出版